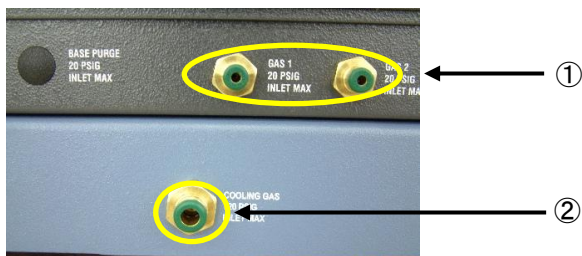


## 測定までの流れ

1. パージガス圧力を調整し、ガスを流す。



### ①パージガスライン(Gas 1, Gas 2)

Gas 1 はサンプル・バランスパージ両方に使用します。Gas 2 はサンプルパージのみに使用し、Gas 1 以外のガスが必要な場合、あるいは、測定中にガスを切り替えたい場合に使用します。

圧力は 70~140 kPa(10~20 psig)の範囲内で調整するようにして下さい。

※流量はバランスとサンプル合計で 100 mL/min 以下で設定します。標準推奨流量は以下の通りです。

Std ファーナス: バランス:40 mL/min, サンプル:60 mL/min

EGA ファーナス: バランス:10 mL/min, サンプル:90 mL/min

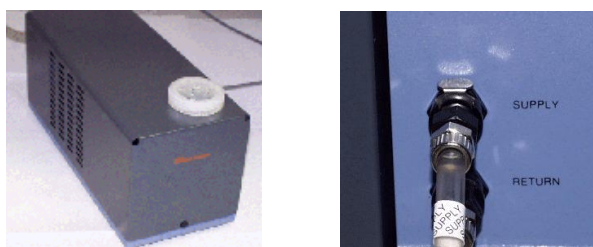
### ②エアクールライン

測定終了後の空冷に使用します。圧力は 170~830 kPa(25~120 psig)の範囲内で調整するようにして下さい。

**注)**適正圧力で供給できない場合フローコントロールが不安定になる原因となり、装置故障の原因となります。

2. 熱交換器の確認

「SUPPLY」のマークのついた水管が装置と熱交換器の「SUPPLY」側に、ラベルの付いていない水管が「RETURN」側に接続されていることを確認します。



3. 電源を入れる。

- ① TGA 本体 (装置背面左側 ディスプレイ表示まで約 30 秒)
- ② プリンター/パソコン



TGA 本体

4. コントロールソフトを立ち上げる

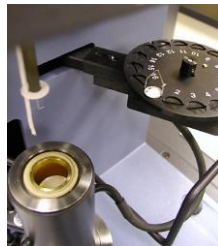


TA Instrument Explorer を立ち上げ、TGA アイコンをダブルクリック。

5. 測定サンプルを準備する

クリーニングしたパンをテアし、サンプルをパンにロードしてトレイに載せます。

└テアの方法は P7:『サンプルパンのテア』をご参照下さい。



6. サンプル情報・測定データの保存先・測定条件の設定・パージガスの種類・流量等、各項目を入力

└測定条件の設定等の方法は P8:『測定パラメーターの設定』をご参照下さい。

7.  ボタンを押して測定開始

※熱電対はなるべくサンプルに近づけておきます。ただし、膨張するサンプルの場合は少し離します。

**注)** サンプルが熱電対に接触するとデータが乱れ、最悪の場合熱電対を破損します)